



花の畔ゾーン

鳥取特有の風土景観や資源の魅力を楽しみ憩うゾーンです。
湖山池の広がりのある水辺空間と全国有数の産地である鳥取の「芝生」、そこに点在する草花により鳥取の誇る郷土景観の魅力に触れる空間です。



緩やかな砂の丘を築山に見立て、特徴的な砂地の植物に郷土の草花、一年草を添え、全国有数の産地でもある鳥取の「芝」とのコントラストが美しい庭園です。

植物を供給する種苗メーカーや生産者からの今後の鳥取のまちづくりへ繋がる『草花』『植物』の出展空間です。



ナチュラルガーデンゾーン

鳥取の新たな緑のまちづくりのあり方を示す湖山池の「顔」、フェアのシンボルとなる「ナチュラルガーデン」。鳥取の風土に適した郷土の植物や身近な野山の草花などの美しさ、魅力を再発見し、生活へと取り入れる『鳥取流緑化スタイル』へ通じるゾーンです。

『鳥取流緑化スタイル』のモデルガーデンとして、ポール・スミザー氏監修のもと、豊かな自然と風土が創出したジオパークで、草花の重なりや葉のコントラスト、咲き終えた草花までも魅力的なナチュラルガーデンです。



「ナチュラルガーデン」監修
ポール・スミザー / Paul Smither
ガーデンデザイナー、ホーティカルチャリスト。イギリス・パークシャー州生まれ。「英国王立園芸協会ウイズリーガーデン」および「米国ロングウッドガーデン」にて、園芸学とデザインを学ぶ。1997年、ガーデンルームを設立。庭の設計や施工、園芸全般に関するコンサルティングや講師として活動。2000年、「第1回東京ガーデニングショー プレゼンテーションガーデン部門」でRHSプレミアアワード(最優秀賞)を受賞。原種系の宿根草類を中心とした、自然な雰囲気庭づくりに定評がある。

出会うの広場ゾーン

会場のメインエントランスとして、鳥取を代表する草花、色鮮やかな秋の草花による「もてなし」の空間と鳥取の食文化が楽しめる「賑わい」の広場です。

鳥取の食文化の魅力発信をテーマとした飲食物販エリアです。



緑花の輪ゾーン(協働ゾーン)

県民・市民とともに緑あふれるまちづくりに繋がり、交流の輪が広がるゾーンです。
主催者、専門家のサポートのもと、県民・市民が協働で創る花壇が会場を彩り、植物の魅力や身近な緑の大切さを知る参加体験催事や屋内展示を展開します。

とっとりフェアでは、フェア後の協働による緑化推進を見据えて『技術向上』『意識啓発』『仕組構築』の3つの柱を軸に、各事業を展開します



『仕組構築』：行政の支援のもと、県民・市民の主体的な活動支援及び交流、情報交換を促進
『技術向上』：緑化活動を実践するための技術を学ぶ講習会などの展開
『意識啓発』：「鳥取流緑化スタイル」の推進を図る活動やシンポジウムなどを展開。

みどりのまちゾーン

これからの鳥取のまちづくりをテーマに大小様々な出展スペースに緑の専門家である企業・団体や一般の企業・団体、大学や高校、県民・市民のグループや個人など多彩な参加者による出展空間です。



とっとりフェアの基本方針

鳥取の特徴あふれる風土の魅力発信

世界ジオパークエリアで開催される初の全国都市緑化フェアとして、ジオパークと調和した植物などの自然環境や環境を守り暮らしに活かす取り組みなど鳥取ならではの魅力を全国発信します。

花と緑と歩む新しい暮らしの体感

県民・市民が、フェアでの様々な取り組みを体感、実感し、緑を暮らしに取り込み楽しむ生活スタイルの創造や発見の契機となることを目指します。さらに、暮らしやまちにとって自然や花、緑の重要性・必要性が浸透していくことを目指します。

ともに進める緑のまちづくり

県民・市民と行政、学校、花や緑の専門家、まちづくり団体などが協働し、主体となってフェアに参加する機会を設けます。フェア終了後も継続できる活動の場と、それを支える組織・仕組みの構築を目指します。

